

第23回 看護研究発表会

平成27年1月16日(金)
神奈川工科大学
ITエクステンションセンター

今回の研究発表では患者様の家族へ目を向けた研究・抑制・長期臥床患者様、また高齢化社会になり認知症に対する看護についてなど、様々な視点から看護に取り組んでいることが感じられました。

今年度は神奈川県保健福祉大学教授水戸優子先生に講評をしていただきました。看護研究の基本となる部分に関して丁寧にわかりやすく講評していただきました。

講 評：水戸優子氏（神奈川県保健福祉大学保健福祉科大学院保健福祉学研究科 教授）
座 長：厚木看護専門学校 第二看護科 科長 島田真由美氏



「神奈川県看護協会県央支部看護研究発表会」に参加して



▶ 厚木市立病院 看護師 長久いずみ

日々、限られた時間の中で看護業務に追われ、患者や家族の思いを置いてけぼりにしてしまうこともあり、必死に仕事をしたあとには、自分の行動に後悔さえも感じてしまうこともあり、最近では看護の基本とはどういうものだったかと考えてしまうこともあり、この看護研究発表会に参加して、ICUでの家族の待ち時間に関してや、患者の端坐位時間を増やす活動など、患者や家族のことを考え、日々試行錯誤で関わり、自分たちの看護をより向上させていく題材ばかりで刺激となり、また感動しました。地域看護でより患者の生活に近い存在で、患者の意思決定支援を行う研究などは経験もしたこともなかったため、学びとなりました。こうした看護師の変化や、患者の変化を看護研究にすることで、より実感できるのだと感じました。研究結果が現状維持でも、向上でも、低下だとしても研究として看護を見直すきっかけとなることは看護観に大きく影響するものだと感じました。研究結果がゴールではなく今後も継続させていくことが重要と発表しており、学びの多い看護研究から逃げちゃいけないと思いました。私自身、自分の提供したい看護とは何か、考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。



▶ 川崎 美穂・友寄 笑里・八別當 真・本間 かほる
医療法人鉄蕉会 亀田メディカルグループ 森の里病院

今回初めて看護研究発表会に参加し、根拠に基づき、継続した看護ケアを提供していく事の大切さを改めて認識する事ができました。

一番印象的だった発表は、第4席「便秘改善及び下肢の拘縮の予防を試みて」です。当院は、高齢者、骨折や周手術期で安静の必要があ

る患者様が多く、便秘や拘縮は身近な問題として捉えています。この研究では、数分間の端坐位であっても予防・改善が期待できるとの結果が報告されており、早速日々のケアに活かしていきたいと思いました。

また、第7席「ナイトレクリエーションにおける実施報告と患者の変化」では、「ナイトレクリエーション」というケアが存在する事を初めて知りました。病院全体で体制を整え、患者様の社会復帰に向け他職種と連携して取り組む事で成果を上げる事が出来ており、病院全体で協力して取り組む事の大切さを改めて考える事ができました。

今、私たちが実践している看護は、諸先輩方がこのような研究を積み重ね、築き上げてきた物であると思います。最後の講評では、研究論文の書き方も教えて頂く事ができたので、今回学習した事や感じた事を今後の看護実践に活かし、より良い看護が提供できるよう、私達も日々研鑽を積んでいきたいと思っています。

貴重な学びの場に参加させて頂きありがとうございました。

編集後記

看護を取り巻く環境も大きく変化し続けています。そして患者様の環境に応じた看護の場も大きく広がっており、私たちも広い視野を求められてきています。県央支部ではエキスパートナース活動・研修会等の様々な活動を通し新しい情報を皆様にお届けしていきたいと思っています。(星野)

県央支部看護だより

大和市 綾瀬市 厚木市 海老名市 座間市 愛川町 清川村

第35号 発行 公益社団法人神奈川県看護協会 県央支部 発行責任者：直井 ひろみ



ごあいさつ

支部長 直井 ひろみ

今年の干支は和を尊び、円満を象徴する「羊」。羊は群れをなして行動することから、家族の安泰や平和をもたらす縁起がよいと言われています。この縁起の良い年にあやかり、神奈川県看護協会県央支部は 2,197 名の会員皆様へ有益である活動を推進して参ります。2015 年は相模原支部と県央支部の合同研修会を 11 月 7 日に公益社団法人日本看護協会 **坂本すが会長による講演**を企画させていただいております。新しい視点での取り組みですのでお楽しみ下さい。いつもご支援を頂いております各施設担当様、会員の皆様には心より感謝申し上げます。この一年が健康で輝かしい年でありますようご祈願いたします。

平成26年度

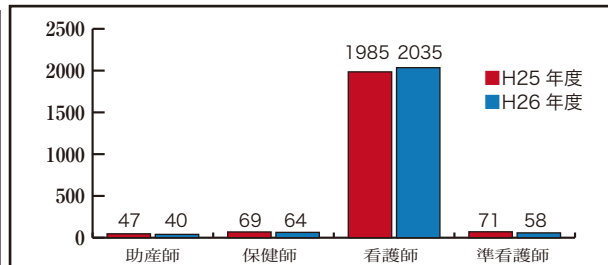
神奈川県看護協会 県央支部活動報告

活動目標

- ①地域住民の健康保持・増進に貢献できる
- ②看護協会の PR 活動を通して会員の増加を図る
- ③看護職の生涯学習を支援し看護の質の向上を目指す

項目・開催日・発行月	内 容	会 場	参加者・発行部数
支部役員会 毎月一回	各事業、予算の計画案、検討、他打ち合わせ	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	役員全員
県央支部だより	年 2 回発行（会員）	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	1 回目2200部 2 回目2200部
支部大会及び講演会 平成 26 年 6 月 27 日（金）	<支部大会> 平成 25 年度事業報告・会計報告 平成 26 年度事業報告・会計報告 <講演会> テーマ 高齢者支援と認知症看護 講 師 認知症看護認定看護師 浅川 健恵氏	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	58名 会員(50名)
エキスパートナース交流会 平成 26 年 6 月 27 日（金） 16：30～18：00	エキスパート交流会・情報交換 登録の状況の進捗状況報告 参加者：11 名	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	登録者 22 名 認定資格者 14 名 登録施設 9 施設 登録資格 14 認定
平成 26 年 10 月 17 日（金） 16：30～18：00	県央地区エキスパートナース交流会規定の説明 参加者：14 名		
まちの保健室 平成 26 年 11 月 8 日（土）	大道芸において「まちの保健室」開催 ① 体脂肪測定 ② 血圧測定 ③ 健康相談（認知症・高血圧・コレステロール・インフルエンザ対策） ④ 看護協会 PR	・厚木中央公園	血圧測定 205名 体脂肪測定 205名 健康相談 205名
看護研修会 平成 27 年 10 月 17 日	「認定看護師と地域連携の現状」 講師東名厚木病院 がん性疼痛認定看護師 高瀬 由佳氏 皮膚・排泄ケア認定看護師 檜山 由紀子氏	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	54名 会員数41名 非会員数13名
看護研究発表会 平成 27 年 1 月 16 日	第 2 3 回県央支部看護研究発表会 講評 神奈川保健福祉大学 保健福祉学科 大学院保健福祉学研究科 教授 水戸 優子氏 座長 厚木看護専門学校 第二看護学科 科長 島田 真由美氏	・神奈川工科大学 I T エクステンションセンター	93名 会員数81名 非会員数10名・一般2名

平成26年度
神奈川県看護協会
県央支部会員数



平成25年度(2172名)
→平成26年度(2197名)
※ 25名増加

看護協会に
入会しましょう



エキスパートナース交流会

交流会参加者の代表として感想を伺いましたのでご紹介します。



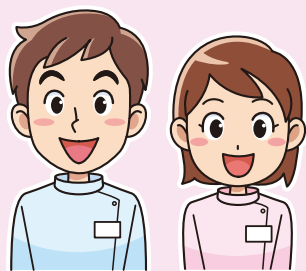
エキスパートナース交流会に参加して

看護局 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 菊地 徹

7月に脳卒中リハビリテーション看護認定看護師になり、本会エキスパートナース交流会に参加する事となりました。エキスパートナースの先輩方との交流は緊張しましたが、快く受け入れてくださり優しい雰囲気での交流が進行したため、自然と先輩方との会話に参加する事が出来ました。

認定看護師は実践・指導・相談を遂行する役割があります。しかし、持っている知識や技術をあらゆる対象に伝えていく事はとても難しく、自施設での認定看護師としての活動は達成感の得られることもあれば、課題として悩みながら取り組んでいる事など様々です。今回、県央支部で活躍しているあらゆる認定分野の先輩方との交流を通して、それぞれの取り組み内容や工夫している所などを知ることができると共に、同じ気持ちを持ち看護の質の向上にむけて取り組んでいる實際を学ぶ事ができました。それは認定看護師としてこれから活動が続けていく上で、同じ志を持った仲間がいるという心強さを実感できることにもつながりました。

今後も交流会に参加させていただき、エキスパートナース同士の情報交換やディスカッションを通して県央地区の看護の繋がりと質の向上に取り組んでいきたいと思っています。



エキスパートナース交流会に登録し活動の幅を広げましょう！

県央支部では、エキスパートナースが所属施設や認定団体を超えて交流できる機会を提供するとともに、充実した活動ができるような支援を続けたいと考えています。

平成27年度登録受付期間：5月～10月 (所定の用紙を看護協会ホームページからダウンロード)

申込先 (お問合わせ先) 東名厚木病院 篠原 充子 宛
TEL 046-228-1771 FAX 046-228-0396

「まちの保健室」

平成26年11月8日(土)あつぎ大道芸が開催されました。その中で県央支部では「まちの保健室」を開催しました。当日は天候が悪く、寒さ厳しい中、多くの方が来場し賑わいを見せていました。厚木看護専門学校の学生さんも参加して血圧測定・体脂肪測定、また高血圧や生活習慣病等のパンフレットを配布し来場者の健康相談を行いました。

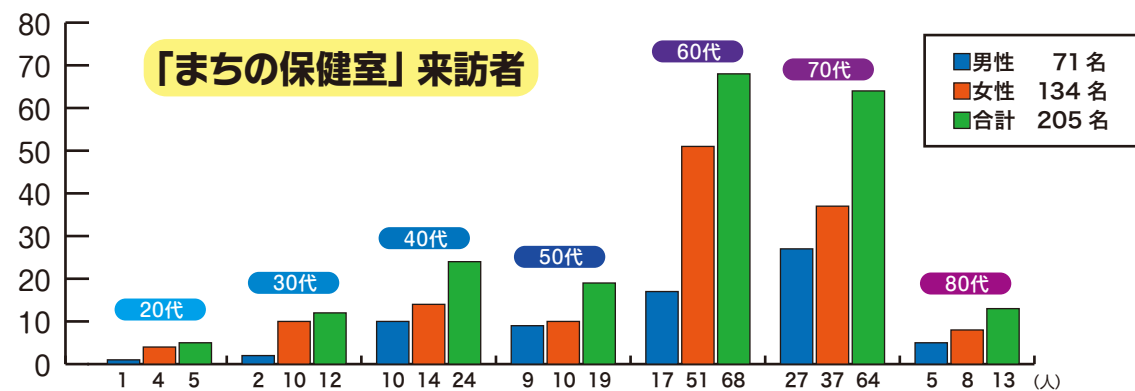
① 体脂肪測定

② 血圧測定

③ 健康相談

認知症・高血圧
コレステロール
インフルエンザ対策

④ 看護協会PR



「まちの保健室」に参加して

厚木看護専門学校 看護第一学科2年生 櫻井 里菜

見た目が痩せている方が体脂肪測定したところ軽度肥満という結果がでてビックリ！

地域のイベントに看護師が参加することによって、地域に密着した関わりができると感じた。心のこもった対応をしていけるように学習をしていきたい。

「まちの保健室」に参加して

厚木看護専門学校 看護第一学科2年生 中島 結乃

まちの保健室へ来ていただいた方の中には、健康に暮らすための運動方法や食事方法、またどのような生活を送ればよいのか、知らない方が多いと感じた。

「まちの保健室」は、普段健康について相談や情報を知る機会が少ない地域の方々にあるのだと思います。皆さんが満足して帰っていく笑顔をみて、私たち学生も元気をいただきました。今回の経験を糧に看護師になる目標に向け、日々努力していきたい。

看護研修会 「認定看護師と地域連携の現状」

日時:平成26年10月17日(金)
場所:神奈川工科大学ITエクステンションセンター

講師:東名厚木病院 皮膚排泄ケア認定看護師 檜山由紀子氏
がん性疼痛看護認定看護師 高瀬 由佳氏

地域連携・退院調整の重要性を感じる中で病院から自宅あるいは施設へ退院される患者が増えています。その中で退院後も安心して治療ができるよう入院時から考えていかななくてはなりません。今回の研修は私たちが行動に移すための道しるべになったと思います。

「認定看護師と地域連携の現状」の研修会に参加して



ケアーズ訪問看護リハビリテーション本厚木 看護師 松尾 典子
鈴木 展江

来年度の介護保険改正と、2025年の超高齢社会を目前に、地域連携の必要性を日々感じる中で、講演会へ出席させていただきました。

今回の症例は、法人内ではありますが、多職種との連携、地域との連携が上手に取れている理想的なものだと思います。

私たちが病棟で勤務していた時は、退院後の生活をイメージし、それに向けてケアしていくことの大事さは理解し、携わっていたつもりでした。しかし、講演会の中で言われていたように、それらをどう結び付けていくかを考えることは難しかったように思います。地域の中で看護をするようになり、その必要性をより強く感じています。そして、地域連携の意識は高まりつつありますが、十分に活用されていない現状と、連携していく難しさも痛感しています。

今後、他職種による地域連携が円滑に行えて、より多くの方が、住み慣れた地域・家で安心して生活が送れるようになることを願っています。



桜ヶ丘中央病院 看護師 高橋理沙

私が働く障害者病棟では、退院調整する機会があまりないものの、定期的に他職種を交えてこれまでの患者様の経過や今後の方向性についてカンファレンスを行っています。そのなかでも、私は、当院の緩和ケアチームの一員として日頃より患者様のニーズを引き出し、そのニーズを充たすことができるような援助を心掛けています。その際に欠かれないことは他職種と情報共有を行い、チーム全体で同じ目標を持ってその目標達成に向けて患者様の援助を様々な角度から行うことです。

更にチームだけでなく病棟や院内の各セクションも巻き込んで活動することが患者様の自己実現の援助へと繋がるのではないかと考え、日々活動に取り組んでいます。

今回、認定看護師として各方面でご活躍されている檜山氏、高瀬氏の講義は大変興味深い内容でした。そして、この研修会に参加して、他職種との連携の重要性を改めて感じました。また、他職種との連携を図る際にチームの中でイニシアチブを取る役割が必要であることを学ぶことができ、今回の研修を今後の看護に活かしていきたいと思っています。